



麦の栽培管理情報

～赤かび防除、はるみずきの実肥施用～

令和8年3月 東部振興局生産流通部 集落営農・水田畑地化班



春先の雨に備えて…鋤をもって排水溝の手直しをしよう！！

◆ 麦の赤かび病に注意！

- 赤かび病を起こす病原菌は、土壌表面の作物残さ上に存在します。
※春になると菌は孢子をつくり、降雨や降雨後の曇天多湿時に飛散します。
- 穂が赤かび病に感染すると桃色のカビを生じるので、肉眼でも発病の有無を判定できます。
※穎の合わせ目を中心に鮭肉色の赤かび病が観察されます。
- 開花期から10日程度が最も感染しやすく、この時期に雨が続き、気温が20℃以上で推移すると、赤かび病の発生が多くなります。
- 感染した後、穂の中で罹病部分が拡大して孢子を形成し、二次伝染を引き起こします。
※防除は必ず2回、適期に行います。蔓延の恐れがある場合は、追加防除をします。
- 穂軸が罹病するとその上方は枯死します。罹病した子実は、褐変粒、しわ粒及び屑粒が多くなります。

💡 赤かび病になると？

赤かび病菌は人畜に有害なカビ毒を産生します。農産物検査で赤かび病菌の被害粒が混入(0.05%以上)したものは、規格外となります。



赤かび病に罹病した穂

◆ 赤かび病の防除、出穂期から判断！

防除適期

1回目の防除適期は、「開花最盛期」です。※二条大麦は葎殻抽出期です
防除適期(開花最盛期)の目安は、「出穂期」から判断します。
いつ出穂期を迎えたのか、観察しておきましょう。

防除	小麦	裸麦	二条大麦
1回目	開花最盛期 (目安)出穂期の 7～10日後	開花最盛期 (目安)出穂期の 5～7日後	葎殻抽出期 (目安)出穂期の 12～14日後
2回目	1回目の7～10日後		

●出穂期とは？

穂先が茎から顔を出した状態を「出穂」といいます。
一番早い「走り穂」が出た後、有効茎の出穂が40～50%に到達した日を「出穂期」といいます。



開花最盛期

💡 豆知識

- ・穂ばらみ期 … 止葉展開期から出穂前日まで
- ・出穂はじめ … 有効茎の10～20%が出穂した日
- ・出穂期 … 有効茎の40～50%が出穂した日
- ・穂ぞろい期 … 有効茎の穂が出そろった日
- ・開花期 … 40～50%の穂が数花開花した日

◆赤かび病防除薬剤の例

FRAC	薬剤名	散布量	使用時期	使用回数
7	ミラビス フロアブル	60～150L/10a (1500倍～2000倍) ※無人航空機は 8～16倍、0.8L/10a	小麦 収穫7日前まで	2回以内
			大麦 収穫14日前まで 裸麦 収穫14日前まで	
3	シルバキュア フロアブル	60～150L/10a (2000倍) ※無人航空機は 16倍、0.8L/10a	小麦 収穫7日前まで	2回以内
			大麦 収穫14日前まで 裸麦 収穫14日前まで	
3	ワークアップ フロアブル	60～150L/10a (2000倍) ※無人航空機は 10～24倍、0.8L/10a	小麦 収穫7日前まで	3回以内
			大麦 収穫7日前まで 裸麦 収穫7日前まで	
1	トップジンM 水和剤	60～150L/10a (1000倍～1500倍)	小麦 収穫14日前まで	小麦 3回以内 (<u>出穂期以降は2回以内</u>)
			大麦 収穫30日前まで 裸麦 収穫30日前まで	大麦・裸麦 3回以内 (<u>出穂期以降は1回以内</u>)

※1回目と2回目の防除は、できる限りFRACの数字が異なる薬剤を使用しましょう

●降雨が続くときは？

- ・赤かび病は防除適期の期間が短いので、**雨が降り続く場合は雨の合間を見て散布**します。
- それが難しい場合は、雨があがったあと1～2回、5日間隔で散布します。
- ・散布後、液剤が乾燥すれば、その後の降雨による効果の低下はありません。

◆はるみずきの実肥散布

醤油用小麦「はるみずき」のタンパク質含有率は、目標13%以上です。
実需者のニーズに応えるためにも、「穂揃い期～開花期」に、実肥を施肥しましょう。
※タンパク質含有率は、交付金単価のランク区分にも影響します。

元肥 分げつ肥 穂肥 **実肥**
窒素施用量 **5 - 2 - 5 - 6** kg/10a

実肥の散布時期・方法

施用時期	穂揃い期～開花期
施肥量	窒素6kg/10a

①葉面散布

赤かび病防除と同時に散布
尿素6kg/水100L・10a × 2回散布
 ブームスプレー

②粒状肥料散布

穂揃い期～開花期(出穂後5～10日後)
硫安30kg/10aを散布
 背負散布機、ドローン等